

『講座案内』 P. 49

オンデマンド講座「不登校児童・生徒への支援と ICT を活用したアプローチ」

シラバス

※ 2021 年度用 シラバス 有効期限 2021 年 11 月 1 日～2022 年 3 月 31 日まで

《目次》

全体の本講座概要について(P.1)

1. 発達に課題のある児童・生徒への指導方法 (P.2)
2. 不登校児童・生徒の特性 (P.3)
3. Web カウンセリング (P.4～5)
4. 学級経営の概要と不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒へのアプローチ
(P.6)
5. ICT 時代の基礎知識（リテラシー・スキル）(P.7)
6. オンラインでの授業設計と教材準備 (P.8)



仏教



文学



文化・芸術



歴史



社会



健康



京都



学部提供講座



特別企画

『講座案内』P.49掲載分 全体の本講座概要について

2021年度 佛教大学オープンラーニングセンター (O.L.C.) 公開講座
【2021年11月1日公開】



オンデマンド講座

不登校児童・生徒への支援と ICTを活用したアプローチ

受講料 各講座 15,000円(税込)

対象者 現職教員、教職を目指す大学生、教育事業に携わる方など

受講時間 1講座600分 ※「履修証明書」希望者は、全6講座3,600分

申込方法 1講座より申込可能
※「履修証明書」希望者は、全6講座の申込みが必要

履修証明書 全講座を受講(動画視聴/総学習時間3,600分)し、かつ全講座のレポート試験に合格した後、希望者には「履修証明書」を発行

全国の小中学校のうち18万人をこえる(不登校の一手手前の欠席が多い子どもたちを含むとその3倍)児童・生徒が不登校であると言われている。本講座は不登校児童・生徒の特性を教育的、社会的、心理学的な側面から理解し、不登校発生のメカニズムと不登校児童・生徒への支援と対処の方法を学ぶ。また、教育論・教師論・学級経営論から、不登校児童・生徒への具体的なアプローチの

方法、支援のあり方、さらに、登校できない児童・生徒を対象として、ICTを活用したWebカウンセリングを用いた具体的な対応技術やオンライン授業の授業設計と授業づくりについて学ぶ。本講座はクラスジャパン小中学園と連携して作成されたものであり、全講座試験合格者には履修証明が付与される。※本講座は、学校教育法第105条に基づく「履修証明制度」プログラムに位置付けられている。

1. 発達に課題のある児童・生徒への指導方法

発達に課題のある児童・生徒への支援や指導を行う際に必要とされる基本的スキルを身につけるため、児童・生徒から見た世界や、児童・生徒の多様性、個性を理解するため、教育および臨床心理の視点から支援・指導のあり方を考える。また、発達に課題のある児童・生徒を取り巻く環境としての保護者や教員にも着目し、保護者や教員が児童・生徒に関わるときに関わり方や保護者支援について考える。

2. 不登校児童・生徒の特性

教育的、社会的、心理学的な側面から不登校児童・生徒の特性を理解することを目的とし、不登校の発生メカニズムと現状・対処の方法についての原理を学ぶ。こうした児童・生徒に対してどのような理解が必要なのか、また、逆にどのような関わりをしてはいけないのかなどについて、これまでの不登校研究の知見や実践からその具体的対処のあり方について学ぶ。

3. Webカウンセリング

Webカウンセリングについて、オンライン・カウンセリングやテレサイコロジーなどの類似の概念と比較しながら、その内容を把握する。その上で、なぜ今 Web カウンセリングが必要なのか、また、Webカウンセリングを効果的に進めるために、Webカウンセリングの特徴や注意事項、そして児童・生徒と接する際の態度・質問・応答などの具体的な技法を学ぶ。

4. 学級経営の概要と不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒へのアプローチ

一般的な教育論・教師論・学級経営論から、学級経営の基本的な考え方を理解する。そのうえで、不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒への具体的なアプローチの方法と支援のあり方に関して、学校内外でできること、また保護者・家族への支援といった視点から学ぶ。

5. ICT時代の基礎知識(リテラシー・スキル)

教科指導を含め、学校教育の様々な場面で必要に応じて、ICT機器やアプリケーションが活用できる基本的な知識と資質・能力を獲得する。知識基盤社会における教師に求められる社会的なニーズを理解し、これからのグローバル化、情報化が進展する中で、教育の情報化をどのように捉えるべきかを考える。

6. オンラインでの授業設計と教材準備

対面授業および不登校児童・生徒に有効なオンライン授業を効果的に実践できるようになるため、学校での対面授業およびオンライン授業における教材設計・著作権に関する理論や知識を学ぶ。また、オンライン授業の必要性、重要性、留意点、そして効果的に実践するための授業設計と授業効果の評価まで含めた授業づくりを学ぶ。



詳細については、大学ホームページよりご確認ください。
<https://www.bukkyo-u.ac.jp/olc/>

P.1

オンデマンド講座「不登校児童・生徒への支援と ICT を活用したアプローチ」

講座名：発達に課題のある児童・生徒への指導方法

担当者：渡邊 照美・牧 剛史・免田 賢

講座のテーマ		発達に課題のある児童・生徒への支援や指導を行う際に必要とされる基本的スキルを身につけるため、児童・生徒から見た世界を理解し、関わり方について具体的に考える。
講座の概要		児童・生徒の多様性、個別性を理解するため、教育の視点と臨床心理の視点から支援・指導のあり方を考える。また発達に課題のある児童・生徒を取り巻く環境としての保護者や教員にも着目し、保護者や教員が児童・生徒に関わる時の関わり方や保護者支援について考える。
講座の目的・ねらい		児童・生徒に適切な支援や指導ができるようになるため、その多様性や個別性を理解できる。 合理的配慮の視点から、児童・生徒への支援や指導ができるようになる。 発達に課題のある児童・生徒の保護者支援ができるようになる。
毎回の講座のテーマ	第 1 回	テーマ：発達に課題のある児童・生徒とは？ 担 当：渡邊照美（佛教大学教育学部准教授） 内 容：発達に課題のある児童・生徒の主な特徴とその理解について具体例をあげながら説明を行う。
	第 2 回	テーマ：合理的配慮とセルフ・アドボカシー・スキル 担 当：渡邊照美（佛教大学教育学部准教授） 内 容：発達に課題のある児童・生徒と不登校、二次障害の関連や教育における合理的配慮を中心に、具体例をあげながら説明を行う。また本人の意向を尊重するために必要なセルフ・アドボカシー・スキルについても説明を行う。
	第 3 回	テーマ：発達に課題のある児童・生徒の世界を理解する 担 当：牧 剛史(佛教大学教育学部准教授) 内 容：特性のある児童・生徒を支援するためには、その子どもが持つ「世界」を深く理解する必要がある。どのような世界を生きているのか、仮想事例を通して考える。
	第 4 回	テーマ：発達に課題のある児童・生徒のチャンネル探し 担 当：牧 剛史(佛教大学教育学部准教授) 内 容：特性のある児童・生徒の世界を理解した上で、どのように関わればよいのか。「チャンネル探し」という臨床心理の視点から考察する。
	第 5 回	テーマ：発達特性に着眼した児童・生徒に対する支援法 ―応用行動分析の基礎を学び活かす― 担 当：免田賢(佛教大学教育学部教授) 内 容：発達のしかたに特徴のある児童・生徒を支援する際に、有効な視点や援助法について概説する。また子どもに関わる教師やスタッフが身につけておく役立つアプローチ法についても触れる。
	第 6 回	テーマ：保護者支援からの児童・生徒へのアプローチ ―親との連携と協働に向けて― 担 当：免田賢(佛教大学教育学部教授) 内 容：保護者との関係の持ち方、児童・生徒に対する協働の仕方、保護者への支援について取り上げる。家庭、学校、社会を結ぶサポートブックについても触れる。
到達目標		児童・生徒の多様性、個別性について正しく説明できる。 合理的配慮の視点も含め、発達に課題のある児童・生徒への支援や指導ができる力をつける。 発達に課題のある児童・生徒の保護者支援ができる力をつける。

オンデマンド講座「不登校児童・生徒への支援と ICT を活用したアプローチ」

講座名：不登校児童・生徒の特性

担当者：原 清治・須永 祐慈

講座のテーマ		不登校児童・生徒の特性を理解し、その発生メカニズムと現状・対処の方法についての原理を学ぶ
講座の概要		ICT を用いて教育支援をする対象は多岐にわたる。しかしながら、昨今の子どもたちや学校教育の現状を鑑みると、ICT を用いて最も効果的かつ能率的に子どもたちと向き合う対象となるのが不登校の問題を抱える児童・生徒であることは論を待たない。文部科学省の統計によれば、全国の小中学校のうち 18 万人をこえる児童・生徒が不登校であると言われており、グレーゾーン（不登校の一手手前の欠席が多い子どもたちの総称）を含むとその 3 倍とも言われる、学校への行きづらさを感じている子どもたちの存在がある。本講においては、こうした不登校児童・生徒の発生原理を理解し、その特性に合わせた支援のあり方について考えてみたい。
講座の目的・ねらい		本講は教育学的、社会学的、心理学的な側面から不登校児童・生徒の特性を理解することを目的とする。こうした児童・生徒に対してどのような理解が必要なのか、また、逆にどのような関わりをしてはいけないのかなどについて、これまでの不登校研究の知見や実践からその具体的対処のあり方について学ぶことをねらいとする。
毎回の講座のテーマ	第 1 回	テーマ：不登校とは何か？ 担 当：原 清治（佛教大学副学長・佛教大学教育学部教授） 内 容： 登校拒否といわれた時代を経て、現在、学校への行きづらさを感じている子どもたちが相当数存在することは文部科学省等の統計データを見ても明らかである。まず、第 1 回はこうした不登校の発生メカニズムとは何かについて、これまでの不登校研究の流れを整理してみたい。
	第 2 回	テーマ：不登校の現状とその背景 担 当：原 清治（佛教大学副学長・佛教大学教育学部教授） 内 容：不登校になった子どもたちの背景には一体どのような要因があるのだろうか。さまざまな統計データのなかからは以下の点が指摘されている。①学校生活に起因する要因（友人関係、いじめなどによる人間関係のトラブルなど）、②学校嫌い、勉強嫌い（学力不振や授業についていけないなど）、③家庭に起因する要因（親との関係性の不和や貧困などの問題によって学校へ登校することの価値観が低下している場合）、④その他の構造論的な要因などである。このような問題の今日の特徴について理解し、不登校の背景を考える。
	第 3 回	テーマ：不登校と学校病理との関係性について考える 担 当：原 清治（佛教大学副学長・佛教大学教育学部教授） 内 容：不登校の背景にはいじめなどの学校病理といわれる現象が存在することが指摘されている。なぜいじめ被害に遭った子たちが引きこもったり不登校を選択したりするのだろうか。キーワードを最近の子どもたちの人間関係のあり方やネット社会による人間関係の変化において、不登校問題を総括的に理解する。
	第 4 回	テーマ：不登校生徒の本音に迫る 担 当：須永祐慈（NPO 法人ストップいじめ！ナビ副代表） 内 容：不登校について、当事者の目線から講義する。その際に、ただの「不登校の経過」だけではなく、なぜ体験者の私が不登校に追い込まれたのか、その際、周りからどのような反応があり、その時にどのような心境を抱いていたのか、そして、どうしてほしかったかを「当事者の視点を交え」て考えていく。それらを通して「不登校の本音」を理解するための手がかりとしたい。
	第 5 回	テーマ：学校に対するネガティブなイメージについて考える 担 当：須永祐慈（NPO 法人ストップいじめ！ナビ副代表） 内 容：不登校の子どもたちにとっては、不登校に至る時点で、多くの学校に対する「ネガティブイメージ」を積み重ねてきている。結果「学校の校門さえも見たくない」と訴え拒絶する子どもも少なくない。そこまでのイメージを持つ理由は何か、どんな背景や視点がありなぜ様々な”不登校という現象”が発生するのか、不登校の視点から学校が抱える問題や課題を「逆照射」してみたい。また彼らは「学校”不適応”」なのではなく、「学校に”過剰適応”しようとした結果としての不登校」の側面としても見ていきたい。
	第 6 回	テーマ：不登校の子どもたちに対する理解と問いかけ 担 当：須永祐慈（NPO 法人ストップいじめ！ナビ副代表） 内 容：学校に行きづらい子どもたちにどのような声かけをしていったらいいのか、また彼らは何を保護者や「支援者・援助者」に望んでいるのかを考える。また、支援者が当事者に対して接する際に必要な条件や心構え、寄り添い方を、すなわち”どのような眼差しで”、”どう接したらいいのか”についての「不登校の子ども観」を明らかにできればと思う。
到達目標		不登校児童・生徒の特性について全般に理解し、構造論的な問題や不登校研究の知見を整理するとともに、実践的に不登校の児童・生徒にどのように関わっていけばいいのか、保護者を含めた支援の仕方についても理解することができるようになる。

オンデマンド講座「不登校児童・生徒への支援と ICT を活用したアプローチ」

講座名：Web カウンセリング

担当者：杉原 保史・宮田 智基・高間 量子

講座のテーマ		Web カウンセリングの概要
講座の概要		Web カウンセリングについて、オンライン・カウンセリングやテレサイコロジーなどの類似の概念と比較しながら、その内容を把握する。その上で、なぜ今 Web カウンセリングが必要なのか、また、Web カウンセリングを効果的に進めるために、Web カウンセリングの特徴や注意事項、そして児童・生徒と接する際の態度・質問・応答などの具体的な技法を学ぶ。
講座の目的・ねらい		Web カウンセリングに関わる基本的な事柄を理解すること
毎回の講座のテーマ	第1回	テーマ：Web カウンセリングとは 担 当：杉原 保史（京都大学学生総合支援センター教授） 内 容： （1）Web カウンセリングとはどういうものか？ このセクションでは、Web カウンセリングという概念について、オンライン・カウンセリングやテレサイコロジーなどの類似の概念を紹介しながら説明し、その内容を大まかに把握する。その上で、なぜ今 Web カウンセリングが必要なのか、その社会的意義について解説する。 （2）カウンセリングの基礎 Web カウンセリングはカウンセリングの 1 つの形態であることを踏まえ、このセクションではあらゆるカウンセリングに共通の基礎を解説する。カウンセリングが素人の悩み相談によくあるパターンとどう違うかを検討し、お説教や知的議論とは異なること、安易に慰めや励ましやアドバイスを与えないことを解説する。クライアントの自律性を尊重する、クライアントの成長のための支援である、クライアントが避けている情動を伴う体験に触れていくのを助ける、などの特徴を説明する。Web カウンセリングを有効に行うためには、カウンセリングの理論を学ぶことが必要であることを述べる。 （3）Web カウンセリングの特徴 このセクションでは、まず Web カウンセリングが通常の対面のカウンセリングと比較してどのような特徴があるかを解説する。さらに、Web カウンセリングにはメール、チャット、ビデオ通話、その他さまざまなアプリやコミュニケーションツールを用いたものがあり、それらはそれぞれに違った特徴を持っている。それぞれについて解説する。 （4）Web カウンセリングを行う上での注意事項 どのような種類のカウンセリングでも、クライアントが安心して相談できるよう、様々な配慮が必要である。カウンセラーとして必須の配慮を形にしたものがカウンセラーの職業倫理である。このセクションでは、カウンセラーの守秘義務や保護義務、インフォームド・コンセントなどの職業倫理の基本を解説する。その上で、こうした職業倫理に関連する、Web カウンセリングに特有の問題について検討する。
	第2回	テーマ：カウンセラーの基本的態度 担 当：宮田 智基（帝塚山学院大学大学院教授） 内 容： カール・ロジャーズの「カウンセリングの三原則（受容・共感・自己一致）」について解説する。また、カウンセラーの聴き方を、①ありのままに聴く、②内的体験を聴く、③感じながら聴く、という 3 つの観点から振り返る。こうしたカウンセラーの基本的態度は、Web カウンセリングにおいても重要である。
	第3回	テーマ：カウンセラーの応答技法①ーあいづち・反射・要約ー 担 当：宮田 智基（帝塚山学院大学大学院教授） 内 容： 相手の話のどこに強く頷き、どんな言葉を返すのかによって、対話の展開は大きく異なる。カウンセラーには、明確な目的感覚を持って応答スキルを用いることが求められる。本回では、カウンセラーの応答技法のうち、「あいづち・反射・要約」について解説する。
	第4回	テーマ：カウンセラーの応答技法②ー質問技法ー 担 当：宮田 智基（帝塚山学院大学大学院教授） 内 容： 本回では、「オープン・クエスチョン」や「クローズド・クエスチョン」、効果的な質問の仕方など、質問技法の基本について解説する。また、ワークを通じて、質問技法の効果を体験的に学ぶことを目指す。
	第5回	テーマ：SNS カウンセリングの効果的な進め方 担 当：宮田 智基（帝塚山学院大学大学院教授） 内 容： SNS カウンセリングとは、LINE などの SNS を用いたカウンセリングの総称である。SNS カウンセリングでは、相手の表情や声の感じなどの非言語情報がわからない中で、相談を進めていかなければならない。本回では、SNS カウンセリングの効果的な進め方、応答技法のポイント、事例素材について解説する。

	第6回	テーマ：SNS を活用した相談の実際 ―相談の現場から― 担 当：高間 量子（公益財団法人関西カウンセリングセンターSNS 相談事業統括） 内 容： これまでのプログラムでは、WEB カウンセリングについての概要、対面との違い、留意点、そしてカウンセリングの基本技法と SNS カウンセリングの方法についての講義があったが、この時間は、実際の SNS 相談の現場から、いくつかの架空事例を詳細に追うことで SNS カウンセリングの留意点やカウンセラーの工夫を紹介していきたい。 相談のプロセス（相談者とカウンセラーのコミュニケーション）を確認することで、相談の場だけでなく普段のコミュニケーションにも役立つヒントになれば幸いである。
到達目標		①Web カウンセリングについて概説できる。 ②カウンセラーの基本的態度や応答技法を身につける。 ③SNS カウンセリングを効果的に進めることができる。

オンデマンド講座「不登校児童・生徒への支援と ICT を活用したアプローチ」

講座名：学級経営の概要と不登校や特別な支援を必要とする
児童・生徒へのアプローチ

担当者：原田 隆史・小林 隆・高見 仁志・原 昌広・鈴木 正樹

講座のテーマ		学級経営の概要と不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒へのアプローチ
講座の概要		本科目は、「総論」「理論編」「各論：実践編」の3部で構成する。 「総論」「理論編」「各論：実践編①」は、一般的な教育論・教師論・学級経営論とその実際を内容とする。 「各論：実践編②～④」は、不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒へのアプローチに特化し、その支援の具体的あり方を内容とする。
講座の目的・ねらい		学級経営の基本的な考え方を理解し、不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒への具体的なアプローチの方法を考える。
毎回の講座のテーマ	第1回	テーマ：総論「教育とは・教師とは・学級経営とは」 担 当：原田 隆史（クラスジャパン小中学園 校長） 内 容 学級経営の前に：教育とは・教師としての心構え 学校教育における学級経営の位置づけ 一般的な学級経営の考え方と学級担任の役割
	第2回	テーマ：理論編「学級経営の理論的背景と概要」 担 当：小林 隆（佛教大学教育学部教授） 内 容 児童・生徒の自己実現を図る理論的背景 学級経営における集団指導、児童・生徒同士のつながりと成長 学級経営における個別指導、保護者との関わり、地域や諸機関との関わり
	第3回	テーマ：各論・実践編①「一般的な学級経営の実際 ―小学校を例に―」 担 当：高見 仁志（佛教大学教育学部教授） 内 容 子ども理解と学級集団づくり 教師の意図的な営みによる学級集団づくり
	第4回	テーマ：各論・実践編②「不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒へのアプローチ その1」 担 当：原 昌広（NPO 法人ステップ理事長） 内 容 不登校やいきしぶりへの対応（原因特定と改善、しんどさの軽減など）
	第5回	テーマ：各論・実践編③「不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒へのアプローチ その2」 担 当：鈴木 正樹（株式会社アットスクール代表取締役） 内 容 学校内でできることと学校外でできること 担任や教育相談、特別支援担当教諭、SC、SSW との連携、外部機関との連携など
	第6回	テーマ：各論・実践編④「不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒へのアプローチ その3」 担 当：鈴木 正樹（株式会社アットスクール代表取締役） 内 容 保護者支援・家族支援の在り方
到達目標		「学級経営の基本的な考え方その実際」「不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒への具体的なアプローチの方法」を説明することができる。

オンデマンド講座「不登校児童・生徒への支援と ICT を活用したアプローチ」

科目名：ICT 時代の基礎知識（リテラシー・スキル）

担当者：古市 文章、古川 俊

講座のテーマ		授業における効果的な ICT 活用の必要性を考える。	
講座の概要		学校教育で ICT を活用するためには情報機器、ソフトウェアが使えることはもちろんのこと、実際の授業の中で実践できる必要がある。本授業では教育の情報化を概観しながら、ICT 活用教育の現状を理解すると共に、主要な情報機器、ソフトウェアの利用技術、および実際の活用事例、活用する際の基本的な考え方（リテラシー）について学習する。 ※本講座は知識編と実践編で構成されています。実践編では、各知識編の講座の振り返りもしながら実践的な学びができるようになっています。実践編だけを視聴しても学びとなりますが、知識編の後に各回の実践編に取り組むことで、より知識の定着をはかることができます。	
講座の目的・ねらい		教科指導を含め、学校教育の様々な場面で必要に応じて、ICT 機器やアプリケーションが活用できる基本的な知識と資質・能力を獲得する。知識基盤社会における教師に求められる社会的なニーズを理解し、これからのグローバル化、情報化が進展する中で、教育の情報化をどのように捉えるべきかを考える。	
毎回の講座のテーマ	知識編	第 1 回	テーマ：Society5.0 と新学習指導要領 担 当：古市文章（佛教大学教育学部教授） 内 容：国が進める Society 5.0 で実現する社会は、IoT で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する社会としている。教育の分野でも、新学習指導要領では、プログラミング教育が導入される等 ICT に特化した施策が「GIGA スクール構想」を中心として推進されている。この講座ではその背景や教育効果について学ぶ。
		第 2 回	テーマ：国の教育改革概論 担 当：古市文章（佛教大学教育学部教授） 内 容：令和元年に文部科学省から「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」という報告書が発表された。そこでは「もはや学校の ICT 環境は、その導入が学習に効果的であるかどうかを議論する段階ではなく、鉛筆やノート等の文房具と同様に教育現場において不可欠なものとなっていることを強く認識する必要がある」と謳っている。この講座では、ICT を活用した新しい学びを実現しようとしている国の動きを学ぶ。
		第 3 回	テーマ：知識基盤社会と教師 担 当：古市文章（佛教大学教育学部教授） 内 容：「知識基盤社会」と謂われるようになって久しい、ではなぜ「知識基盤社会」に備える教師が求められるのか、その背景を踏まえながら目指す教師像を確認する。
		第 4 回	テーマ：新学習指導要領の実施 担 当：古市文章（佛教大学教育学部教授） 内 容：新学習指要領改訂のキーワード（アクティブラーニング、カリキュラムマネジメント、パフォーマンス評価、コンピテンシー）について確認しながら、改訂の意図を学ぶ。
		第 5 回	テーマ：重複・発達障害と ICT 担 当：古市文章（佛教大学教育学部教授）、 内 容：特別支援教育は、「発達障害のある子どもも含めた全ての子どもたちの可能性を最大限に伸ばす教育である。」を基本として、「合理的配慮」、「ICT の活用」について理解を深める。
		第 6 回	テーマ：「不登校・ひきこもり」の指導・支援 担 当：古市文章（佛教大学教育学部教授） 内 容：本講義のテーマを、行政施策とデータを分析しながらその意図について考察する。加えて「ひきこもり」の社会的な課題についても学ぶ。
	実践編		テーマ：様々なツールを活用した実践 担 当：古川俊（クラスジャパン小中学園システム部長） 内 容：Google Slides やパワーポイントを用いたプレゼンテーション資料の作成、Google Form を使った質問フォームの作成、Meet、Teams、Zoom などの TV 会議システムやパワーポイントを使った動画教材の作成について学びます。またこれらの作成したスライドや動画を Google site にまとめる実践的な方法が学べます。本講座は第 1 回から 6 回の授業の内容に関して実践してみるのもよいでしょう。
到達目標		教育の情報化について、必要とされる資質・能力を理解し修得する。	

オンデマンド講座「不登校児童・生徒への支援と ICT を活用したアプローチ」

科目名：オンラインでの授業設計と教材準備

担当者：篠原 正典・黒田 恭史

講座のテーマ		効果的・魅力的に実践するためオンライン授業づくり
講座の概要		学校での対面授業における教材設計・著作権に関する理論や知識を学びながら、特にオンライン授業に焦点を当て、オンライン授業の必要性・重要性、そして効果的に実践するための授業設計と授業効果の評価まで含めた授業づくりを学ぶ。
講座の目的・ねらい		オンライン授業を受講せざるを得ない児童・生徒に対して、現職教員あるいは教職を目指す学生が効果的な授業実践ができるようになることを目的として、効果的な授業設計に基づく教材作成および授業づくりの方法を提供する。
毎回の講座のテーマ	第 1 回	テーマ：学校教育における他者の著作物の利用 担 当：篠原正典（佛教大学教育学部教授） 内 容：学校の授業の中では著作権者の権利を害しない範囲での他者の著作物の複製が認められている。しかし、同じ著作物でもオンライン授業の公衆送信での利用に関しては許諾が必要となる場合がある。また、著作権法第 3 5 条の改正や「授業目的公衆送信補償金制度」など、オンライン授業の増加に合わせて運用整備がなされてきている。学校で著作権侵害をしないように、最新の学校教育における著作権について学ぶ。
	第 2 回	テーマ：インストラクショナルデザインに基づく授業設計と教材設計 担 当：篠原正典（佛教大学教育学部教授） 内 容： インストラクショナルデザインに基づき、教材設計・作成の考え方や盛り込むべき項目、また、動機づけや知的好奇心を引き出すための教材設計について学ぶ
	第 3 回	テーマ：オンライン授業を必要とする子どもたち 担 当：黒田恭史（京都教育大学教育学部教授） 内 容：様々な理由で学習に配慮を要する子どもたちはこれまでも少なからず存在してきた。傷病による院内学級の子どもたちや不登校の子どもたちは、教室で授業を受けることができないために、オンラインでの学習支援が不可欠である。また日本語指導を必要とする外国人の子どもたちに対しても、母語などによる特別な支援が必要なため、オンラインでの多言語対応による学習支援が役立つ。こうした個別の学習支援にオンラインでの授業がどのように有効に機能するのかについて学ぶ。
	第 4 回	テーマ：オンラインでの具体的な授業設計の方法 担 当：黒田恭史（京都教育大学教育学部教授） 内 容：対面式の通常の授業をそのままオンライン授業に転用すると、様々な面で学習者に負担が生じる。そこで、学習者にとって最も効果的な学習となるためのオンライン授業の設計の仕方について学ぶ。
	第 5 回	テーマ：オンデマンドでの具体的な授業づくりの方法 担 当：黒田恭史（京都教育大学教育学部教授） 内 容：オンデマンドでの授業づくりについては、資料、動画、スライド等を、学習者の理解の過程に応じて適切に方法を選択しながら提示していく必要がある。それぞれの方法についての具体的な動画等の作り方や注意すべき点について学ぶ。
	第 6 回	テーマ：オンラインでの具体的な授業評価の方法 担 当：黒田恭史（京都教育大学教育学部教授） 内 容：オンラインでの授業における評価の方法については、従来からある診断的評価、形成的評価、総括的評価に加えて、e ポートフォリオ評価などを組み合わせながら適切に行う必要があり、指導者と学習者双方の合意形成を目指した評価のあり方について学ぶ。
到達目標		教材設計のための基本となる理論を理解し、オンライン授業における著作権に配慮した教材作りおよび効果的な授業づくりができるようになる。